

路上博物館



私達は、新聞で資金がないために博物館が建てられず、インターネットでしか見られないたくさんの戦争の遺品があるという記事を見て、この「路上博物館」を思いつきました。

この「路上博物館」は道端にあるので、誰でも見られ、コストも少なく、そしてインターネットの画面上では伝わりにくかった、「戦争の恐ろしさ」や、「当時の生活の様子」なども、身近に感じることができます。

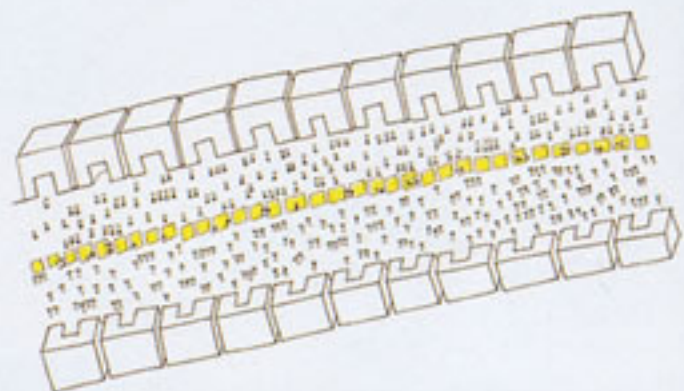
更に、「路上博物館」が地元神戸だけでなく全国各地に作られれば、それぞれの地方でその時・その場所で起こった事を知ることができ、皆が戦争について考える事ができると思い私達は、この「路上博物館」を提案します。



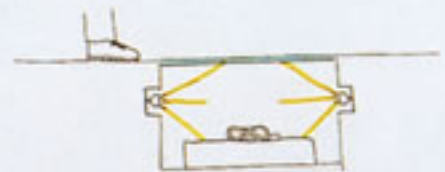
神戸市が建設構想を打ち出した「平和記念館」が、不況による市税収入の落ち込みと、震災復興関連の市債償還が要因で、市の財政が悪化し、凍結された。そして、代わりにインターネット上で開館することになった。

市のホームページで専門コーナーを設け、資料の一部を紹介する。市の「苦肉の策」だが、「画面で戦争体験が本当に伝わるのか」、「戦争で大きな被害を受けた神戸に記念館がないのはおかしい」という声もある。

路上博物館



戦時資料を商店街などの道端に埋め込みます。そうすれば、商店街に買い物に来た人でも、気軽に見る事もできます。



これらは、インターネット上で展示されている戦時資料です。こうゆうインターネット上で、展示されている戦時資料を、商店街などの人の集まる所に展示すれば、いろんな人が見ることができ、戦争の事をあまり知らない人でも、もっと知る事ができるしいと思います。

戦時資料の上は、ガラス張りになっているので、ガラスの上に乗って見る事もできます。そして、両端には、電気がついているので、暗い時でも見やすくになっています。

路上博物館



ボランティア

土、日など休みの日には、実際に戦争を体験した方々に話しを聞くことができる。



ヘッドホン

平日は、誰でも・いつでも話が聞けるように商店街の両端に、ヘッドホンを設置する。



パンフレット

展示品の説明、教などが書いてある。



イベント

クリスマスや、ルミナリエなど大きな行事がある時は、商店街の店が閉店した後、電気を全部消して展示品の照明だけにする。

